

大陸侵略明示せず！ 戦後70年安倍首相談話

政府は8月14日の臨時閣議で、戦後70年の安倍首相談話を決定したと、新聞各紙は報道しました。

キーワードである「反省とお詫び」では、歴代内閣の内容を引用しただけで、自ら反省とお詫びを表明していないとの指摘がされています。「植民地支配」や「侵略」については、言葉としては使ったものの、日本国の侵略行為そのものについては全く触れてはいません。これらを見る限り、安倍内閣が心の底から反省とお詫びをしたのか疑問でなりません。

それを裏付ける出来事が、翌15日の閣僚3人による参拝靖国神社参拝ではないでしょうか。安倍首相は、靖国神社の参拝は見送りましたが、代理を通じて私費で玉串料を奉納しました。

靖国神社といえ
ば、戦前・戦中の
思想を正当化し、
「反省とお詫び」
「植民地支配」
「侵略」を一切否
定する場所です。

このように平気で二枚舌を使う安倍内閣は信用できるはずがありません。

2015年8月15日
『静岡新聞』

首相談話「おわび」記述



戦後70年談話を発表し、質問に答える安倍首相
＝14日夕、首相官邸

安倍晋三首相談話ポイント

- 先の大戦をめぐる、歴代内閣の謝罪を紹介する形で「おわびの気持ち」を記述
- 大戦への深い悔悟の念を表明
- 将来世代に謝罪を続ける宿命を背負わせてはならないと強調
- 国際紛争を解決する手段とし、平和と発展に力をつくすこと、中国大陸などの日本の行為を侵略と明示せず
- アジア諸国の平和と発展に力をつくすこと、中国大陸などの日本の行為を侵略と明示せず

1995年の村山富太郎首相の「おわび」などを盛り込んだ立場を、安倍首相は「おわび」を「お詫び」と改題し、歴史認識問題の收拾を図りたいと思ふとあるとみられる。だが、自らの言葉を「おわび」と改題し、謝罪と受け取られない可能性がある。

談話は約3400字で、村山談話より大幅に増えた。英も同時に発表された。中国語や韓国語の訳文も発表する方向だ。

首相は会見で村山談話との「おわびの気持ち」について「おわびの気持ち」と改題し、謝罪と受け取られないよう配慮したと述べた。

談話は31年の満州事変以降の日本について「進むべき道を見失い、戦争への道を進んだ」とした。先の大戦に関する国内外の犠牲者について「深く頭を下げ、心を痛め、悔悟の念を表すとともに、永劫（えいこく）の哀悼（あいとう）の意を表す」と記述した。戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を呼び、国際社会で責任を果たす」と決意を示した。同時に「積極的平和主義の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上の貢献をする」とし、

歴代内閣の立場継承
戦後70年 大陸侵略明示せず